

豊中市地域包括支援センター外部評価表

○仕様書[4] 業務内容 ア) 介護予防ケアマネジメント業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
1	介護予防ケアマネジメント業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください。複数項目でも可） ☒ 自立支援に資するプランになるよう、委託先の居宅介護支援事業所に対し、積極的なアプローチを実施している。 ☐ 高齢者の主体性を引き出すための工夫をしている。 ☒ ハビリ専門職に意見を求めるなど、生活能力の改善・維持・悪化の可能性を見極める視点	【目標と具体的な取組み内容】 目標： ①圏域のケアマネジャーが自立支援につながるケアプラン作成をできるようになる。 ②圏域のケアマネジャーの資質向上の為に、ケアマネジャー同士がつながる機会をつくっていく。 具体的な取組み内容： ①地域ケア個別会議への事例提供を通じて、自立支援の考え方を学び、ケアプランに反映してもらう様にする。 ②今年度は「しばはら結びの会」の周知を図る為、各事業所周りを行い、名刺交換しチラシを配った。包括とケアマネジャーとの顔の見える関係作りを行った。	交流の場をメインに打ち出すことで、気軽な参加を促し、圏域全体の資質向上に結びつけられるよう配慮されています。告知も兼ね、圏域内の居宅介護支援事業所全てを巡回し、交流の場の案内や事業所の実態把握が行われています。今年度は準備段階がメインであり、介護支援専門員が必要とする情報ニーズを把握した上で、来年度は圏域外の介護支援専門員も含めた積極的な活動展開を行って行く予定です。 介護支援専門員に対して行った研修等による成果を、いかに把握し、次回以降の開催内容に繋げていくかを意識し、質の向上が客観的に把握できる取組み展開に期待しま

柴原地域包括支援センター

	を培っている。 □潜在的対象者の把握について工夫している。	【課題】 ①圏域のケアマネジャーへの自立支援型ケアプランの意識づけがまだ足りない。 ②地域ケア個別会議に提出した事例が、結果がどうなったのか、どこまで効果があったのか見えにくい。 ③地域課題の抽出(地域づくり)につながない。 【改善の方策と次年度の取組み】 ①「しばはら結びの会」の場を使い、ケアマネジャーの啓発や研修の実施を行う。包括職員も全員が地域ケア個別会議の事例提供や会議の運営に協力する。 ②地域ケア個別会議に提出した事例のモニタリングをして効果を検証する。 ③集積した地域ケア個別会議の提出事例を分析し地域づくりに生かす。	す。
--	---	---	-----------

柴原地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 イ) 総合相談支援及び権利擁護業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
2	総合相談支援及び権利擁護業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください。複数項目でも可） ☐ 自分らしく尊厳をもって生活することができるよう、自己決定・意思決定支援をしている。 ☐ 予防的アプローチと地域づくりに取組んでいる。 ☐ 3 職種の専門性を活かしたチームアプローチを実施している。 ☒ 多機関と連携した重層的支援体制の構築に向けた取組みを実施している。	【目標と具体的な取組み】 目標： 個別支援から地域支援へ。「地域共生社会の実現に向かって地域にどんどん出て行こう」をスローガンに、地域の問題を関係機関と共有し、地域課題・コロナ禍の影響で希薄となっているネットワークの再構築を図る。 具体的な取組み内容： ①刀根山高齢部会で出た課題を解決するために、社協・介護サービス事業所・障がいサービス事業所で連携してローソン移動販売をスタートすることができた。 ②校区福祉委員、社協、市立豊中第13中学校と連携し、刀根山子どもカーニバルに市立豊中第13中学校の吹奏楽部を招致し、マーチング演奏を子どもたちに披露することができた。 ③刀根山夏フェスで包括が救護班の担当をした。 ④校区福祉委員、民生委員と連携し、「とねやま地域子ども教室」にて防災・熱中症について、子ども達に向けて体験ブースの設置・講話を行った。	コロナ禍で希薄となっていた地域との関係性の再構築を目標に掲げ、地域に出て行き双方向の活動に取り組まれています。地域課題に対して、他福祉サービスも含めた連携で、課題解決に向けた取組を実現させています。校区の福祉委員や小中学校とも連携し、子どもたちも含めた地域全体に向けた活動の拡充を実施されています。従前から行っている「みんなの保健室」事業に他事業所の参画を得て持続されています。 コロナ禍の制限化において実施困難となっていた市民に向けた啓発を、効果が測定できる形で幅広い年齢層へと展開し拡充されることが期待されます。

柴原地域包括支援センター

		⑤地域から出た地域住民宅のゴミ問題について、市社協・保健所・障がい・校区福祉委員・民生委員・自治会と連携して個別ケース会議を開き、市役所基盤課とも連携して問題解決へ向けて進めている。 ⑥地域の子ども多世代ふれあい事業において、蜷池地区周辺の小学生向けに認知症サポーター養成講座を開催した。 ⑦走井地区にて、自治会、障がい事業所、包括合同で障がい・高齢合同相談会を開催した。 ⑧大池校区にて「みんなの保健室」を開催。今年度より地域の訪問リハビリ事業所に参加して頂いた。
		【課題】 ①地域づくりに向けた支援により、地域の人と人とのつながりを構築したいが、企画をして開催しても地域住民の参加がとても少ない。 ②コロナ禍の影響・核家族化・高齢化率の上昇に伴い、地域の繋がりや世代間の繋がりが希薄になっており、普及啓発活動が浸透しにくい。
		【改善の方策と次年度の取組み】 ①ローソン移動販売については事業の継続と周知方法の再検討を行う（チラシの内容検討、周知についてのマンパワーを増やす、ニーズ調査の為のアンケート実施等）。 ②走井地区の障がい・高齢合同相談会は初年度であり、参加者が少なかった。

柴原地域包括支援センター

		周知を継続すると共に、相談会だけでなく子ども食堂や認知症カフェ、まちの保健室の機能を併せ持った「地域の集いの場」として発展させたい。	
--	--	--	--

柴原地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
3	包括的・継続的ケアマネジメント支援業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください。複数項目でも可） ☒介護支援専門員等への個別ケアマネジメント支援において、地域包括支援センターが代わりに行うのではなく、介護支援専門員がより良い判断に到達できるよう助言等の支援している。 ☒地域アセスメントを実施し、地域の実情に応じた取組みを実施している。	【目標と具体的な取組み内容】 目標： ①圏域内で地域ケア個別会議を開催し、ケアマネジャー同士が交流できる機会を設け、会議の周知を図る。2月地域ケア個別会議終了後に「しばはら結びの会」を開催する。 ②医療（薬剤師含む）と介護の連携の場を持つ。 ③在宅医療・介護連携支援センター事業の取り組み（ACP 研修開催）への参加を通じて、医療・介護関係者との連携を深める。 ④高齢部会にて地域の困りごとを話し合い、地域課題を明確にする。関係者で共有し、解決に向けて取り組む。 具体的な取組み内容： ①「地域ケア個別会議」を豊中市版、圏域版に分けて実施した。またケアマネジャーの資質向上のため、関係機関と連携し年2回勉強会を開催した。 ケアマネ交流会として「しばはら結びの会」を計画し、2月末の開催に向けて案内している。 ②green lab2025にて医療、行政の関係者に講演して頂いた。在宅医療、介	介護支援専門員に向けた ACP（人生会議・終末期に向けた意向意思の明確化）の勉強会・グループワーク・研修に取り組みました。ACP については、さらなる理解の促進と啓発を継続される予定です。介護支援専門員の交流の場を設けたことで、来年度以降、研修や勉強会も含めた資質の向上に取り組まれる予定です。コロナ禍で制限されていた、高齢部会等の再開に伴って、関係性が希薄になっていた圏域内の多職種連携の再構築が開始されています。 今年度の取り組みを活かして、医療・介護関係者との連携を深め、地位課題の解決に向けて協働することが期待されます。

柴原地域包括支援センター

	護に関する講演内容で、参加したケアマネジャーにとって今後の業務に役立つ内容となった。 ③在宅医療・介護連携支援センター事業のACP研修会の企画、開催準備を行った。今年度はケアマネジャーに向けてより実践的な内容を企画する。 意識を高め、手法を学べる研修とする。 ④圏域の各校区（5校区）で高齢部会を実施。毎回、ケアマネジャーに参加して頂いた。コロナ禍の中でのふだんの業務の現状や高齢者の様子など、地域の関係者、行政等と情報共有することができた。
	【課題】 ①地域ケア個別会議をケアマネジャー同士の交流の場と考えていたが、名刺交換の時間もあまりなく、意図した様に機会がつかれなかった。 ②green lab2025の参加者は介護関係者が少なく、同じ様な顔ぶれである。 もっと広く周知活動をする必要がある。また、圏域内の医療機関も参加は少ない。もっと積極的に足を運び、PR する必要がある。 ③特にケアマネジャーに対して ACP の周知を図ることを目的としているが、前回は参加が少なかった。原因として「ACP は医療の側のもので介護側は関係ない」という意識がケアマネジャーにあることが挙げられる。 研修内容を工夫しケアマネジャーに ACP の大切さを理解してもらうことと具体的手法について学んでもらう内容にする。 ④高齢部会にケアマネジャーに参加してもらい、情報共有してもらっているが、コロナ禍の制限もあり、参加数を制限した結果、グループワークができ

柴原地域包括支援センター

	なかった。その結果、地域関係者とのネットワークづくりの場としては不十分になってしまった。	
	【改善の方策と次年度の取組み】 ①地域ケア個別会議は圏域版を中心により多くのケアマネジャーに参加を呼びかけ、自立支援の考え方を浸透させる。助言者として圏域の主任ケアマネジャーに参加してもらう体制をつくる。 地域のケアマネジャー同士で情報交換等ができる場として「しばはら結びの会」の開催を予定している。ケアマネジャーのニーズに合わせた研修や茶話会など企画していく。 ②green lab2025 において、より多くの介護・医療関係者に参加してもらう為に、年 3 回の green lab2025 の開催の機会に計画的に参加呼びかけを行っていく。 ③在宅医療・介護連携支援センター事業において、次年度は ACP 研修の三年目となる。これまでの集大成として、CM により一層の周知を図り、ACP を高齢者支援の現場に浸透させる。 ④次年度の高齢部会はより多くのケアマネジャーに参加してもらい、障がいや医療機関などにも幅広く呼びかけて、活発なグループワークを行うことを目標とする。コロナ禍であるが開催方法を工夫して行う。地域ケア個別会議との連動も意識し、地域、多機関共同の地域づくりに向けて、より効果的な高齢部会を開催する。	

柴原地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 エ) 一般介護予防事業を推進する取組みについて記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 （地域包括支援センター運営協議会からの意見等）
4	一般介護予防事業を推進する取組み（次のいずれかの視点を入れて取組んでください。複数項目でも可） ☒地域の通いの場づくりにおいて、地域及びグループの特性に応じた活動を、創意工夫しながら支援している。 ☒多様な地域活動や通いの場等と連携し、介護予防ネットワークの構築を推進している。 ☒体力測定会において短期集中サービス終了後のセルフケアの定着を推進しつつ、地域資源につなげるなど高齢者の社会参加を促す取組みを実施している。	【目標と具体的な取組み内容】 目標： コロナ禍で高齢者の活動の場が狭小化する中で、感染管理に注意しつつ社会参加ができるように、通いの場の立ち上げに向けた支援や、体力測定会時にイベントなどの案内を行う。また、地域の行事に出向き、包括の案内や通いの場の普及啓発を行う。 具体的な取組み内容： ①通いの場がない地区でのパワーアップ体操の体験会の実施 ②個々の能力に応じて、行えない体操の代替えを行った。 ③地域の斎場の地域向け行事に参加し、包括の説明、通いの場の案内、介護予防の講話を行った。 ④サ高住の施設と地域住民がコラボしパワーアップ体操の体験会を実施 ⑤体力測定会時、個々の状況に応じて認知症サポーター養成講座、パワーアップ体操の体験会の案内、お散歩マップの配布などを適宜行った。	【取組内容】 地域に向けた情報提供として、今年度新たにお散歩マップを作成し、啓発活動に活用されています。高齢者住宅等、社会資源の中から通いの場を設けられる場とニーズを発掘し、新たな場の確保が行われています。体力測定会を今年度開始されましたが、積極的な参加、継続的な参加を促せるような工夫が望まれます。

		【課題】 ①体力測定会の参加者が少ない。 ②既存の通いの場と体力測定会参加者のマッチングが困難（近所がない等） ③ハード面（DVD も CD も活用できない、会場費がかかる）の理由により通いの場が立ち上げられない。 ④包括職員全体で通いの場の普及啓発をしていくことがまだ充分ではない。	
		【改善の方策と次年度の取組み】 ①体力測定会の開催場所や回数について検討し、より多くの方に参加できるような環境を整える。 ②地域のニーズを探って通いの場を立ち上げる。 ③ハード面で通いの場の立ち上げが難しい場合は、包括の DVD プレーヤーを一時的に貸し出したり、CD のみでも実施可能とし、その場合は立ち上げ支援の機会を 4 回以上にする等臨機応変に市と相談しながら対応していく。 ④職員全体へ通いの場を普及する必要性の理解を促すために、体力測定会や普及啓発時に積極的に参加してもらう。測定器の使い方も覚えてもらう。また、ふだんより担当者から全体に声掛けして普及啓発に対しての意識づけをする。	

柴原地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 オ) 認知症地域支援・ケア向上事業について特に力を入れて取組んだことを1つ記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 （地域包括支援センター運営協議会からの意見等）
5	認知症地域支援・ケア向上事業（次のいずれかの視点を入れて取組んでください。複数項目でも可） ☐ 認知症支援に関する個別事例において、嘱託医、初期集中支援チーム、疾患センター等の専門機関に相談する必要性を判断し、必要時相談できる体制を整えている。 ☒ 地域の実情に応じた方法により、認知症の人とその家族が参加する場で、本人の意欲向上と家族の介護負担感の軽減、認知症の人の在宅生活の安定を推進している。	【目標と具体的な取組み内容】 目標： 認知症に対する偏見が解かれ、認知症ご本人やご家族が安心して生活が続けるために、地域の方々や民間事業所向けに認知症サポーター養成講座の案内や開催、および認知症カフェの立ち上げの案内や支援を行う。 具体的な取組み内容： ①認知症サポーター養成講座や認知症カフェに関するチラシを作成した。 ②各校区「なんでも相談室」へ出向きチラシの配布や案内を行った。 ③高齢部会や地域教室等行事でチラシの配布や案内を行った。 ④カフェ立ち上げ時や事後の継続した支援を行った。 ⑤蛭池地域の小学生向けにサポーター養成講座を行なった。 また、小学校長へ来年度のカリキュラムの中へ養成講座を組み込んでいただけるよう依頼した。	今年度新たに認知症カフェを立ち上げられています。拡充のため、各校区の、なんでも相談・高齢部会等で、認知症カフェや認知症サポーター養成講座の啓発に取り組まれています。学校関係へ認知症サポーター養成講座のカリキュラム導入推進に取り組まれています。 認知症カフェへの当事者参加が増えないことを課題として認識されているので、啓発だけでなく、情報交換の場、学べる場、相談できる場、本人・家族が安堵できる場としての機能拡充が望まれます。

		【課題】 ①認知症サポーター養成講座と認知症カフェの周知案内をしてきたが、事後の問い合わせが増えていないため、案内先や方法を検討する必要がある。 ②カフェへ認知症ご本人やご家族の参加が増えていない。カフェの存在意義や必要性を周知する必要がある。	
		【改善の方策と次年度の取組み】 ○今年度の取り組みに加え、地域活動の中心者や各事業所へ個別に案内を行う。 ○包括職員へもカフェの必要性を認知してもらうため積極的参加を促し、ご本人やご家族へ紹介してもらう。 ○今年度と同様、小学校に出向きサポーター養成講座の開催依頼を行う。また、今年度実施した小学生向け養成講座をベースにして、より内容に工夫をこらし、福祉教育の場としても充実させたい。	